



2020年11月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年10月13日

上場会社名 シリコンスタジオ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3907 URL <https://www.siliconstudio.co.jp/>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 梶谷 眞一郎
 問合せ先責任者(役職名) コーポレートサービス本部長 (氏名) 高野 賢一 (TEL) 03(5488)7070
 四半期報告書提出予定日 2020年10月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年11月期第3四半期の連結業績(2019年12月1日～2020年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年11月期第3四半期	3,062	△11.3	9	△84.1	14	△77.7	△77	—
2019年11月期第3四半期	3,452	△6.6	61	—	67	—	72	—

(注) 包括利益 2020年11月期第3四半期 △77百万円(—%) 2019年11月期第3四半期 71百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年11月期第3四半期	△26.97	—
2019年11月期第3四半期	25.32	25.15

(注) 2019年11月期第3四半期においては、1株当たり四半期純損失であるため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年11月期第3四半期	2,328	1,356	57.9
2019年11月期	2,402	1,514	62.6

(参考) 自己資本 2020年11月期第3四半期 1,347百万円 2019年11月期 1,505百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年11月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年11月期	—	0.00	—	—	—
2020年11月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年11月期の連結業績予想(2019年12月1日～2020年11月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,076	△11.3	80	76.3	80	32.6	30	△81.0	10.45

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 有
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2020年11月期3Q	2,956,200株	2019年11月期	2,948,200株
② 期末自己株式数	2020年11月期3Q	90,040株	2019年11月期	30,040株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2020年11月期3Q	2,880,896株	2019年11月期3Q	2,870,156株

(注) 株式給付信託 (J-ESOP) の信託財産として資産管理サービス信託銀行株式会社が保有する当社株式25,000株は、上記自己株式に含めておりません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業務見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計上の見積りの変更)	8
(四半期損益計算書関係)	8
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行の影響により、依然として厳しい状況が継続しています。

このような環境の下、当社においては、従業員及びそのご家族の健康に配慮すべく、時差出勤やテレワークを導入し事態の長期化に備えるとともに、当社が強みを持つコンピュータグラフィックス関連ビジネスに多角的に取り組んでまいりました。

開発推進・支援事業においては、大域照明とも呼ばれるグローバルイルミネーションをリアルタイムに処理するミドルウェア『Enlighten』のバージョン3.11を2020年9月にリリースし、今後需要が見込まれる次世代ゲームプラットフォームへ対応いたしました。

人材事業においては、クライアント企業において従来より採用を厳選する動きがみられるものの、緊急事態宣言解除後、クリエイティブ業界の人材獲得ニーズは回復傾向にあります。

前年度より継続中の他社と協業しているコンテンツタイトルにつきまして若干の利益が発生しており、「その他」のセグメントに計上しております。

なお、当社は「with コロナ」時代に対応すべく、2020年6月より在宅勤務制度を本格導入することといたしました。これに伴い、事務所レイアウトの再配置を実施し、賃借している事務所の一部を2020年10月に解約することとし、解約の決定に伴い、減損損失33百万円を特別損失に計上いたしました。

また、当期の業績進捗を踏まえ、繰延税金資産の回収可能性を慎重に検討した結果、繰延税金資産を56百万円取崩し、同額を法人税等調整額に計上いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高が3,062百万円（前年同期比11.3%減）、営業利益は9百万円（同84.1%減）、経常利益は14百万円（同77.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純損失は77百万円（同150百万円減）となりました。

報告セグメントの状況は、以下のとおりであります。

① 開発推進・支援事業

当第3四半期連結累計期間におけるミドルウェアライセンス販売の売上高は、新型コロナウイルス感染症等の影響により、お客様による評価に時間を要していることから減収となりました。

受託開発の売上高は、見本市への出展取り止め等の影響により、非エンターテインメント領域の受注に苦戦していること等から減収となりました。

ネットワーク構築・運用等のサービスを提供するソリューション売上は、運用タイトル数の減少等により減収となりました。

利益面においては、上記減収要因に加えて、子会社において手戻りの発生等により減益となりました。

以上の結果、売上高は1,625百万円（前年同期比18.2%減）、セグメント利益は37百万円（同74.3%減）となりました。

② 人材事業

当第3四半期連結累計期間における派遣先で稼働した一般派遣労働者数は延べ2,120名、有料職業紹介の成約実績数は235名となりました。

以上の結果、売上高は1,368百万円（前年同期比0.2%増）、セグメント利益は301百万円（同11.2%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて74百万円減少（前連結会計年度末比3.1%減）し、2,328百万円となりました。

これは主に、仕掛品の増加174百万円、現金及び預金の増加15百万円があったものの、売掛金の減少167百万円、有形固定資産の減少36百万円、無形固定資産の減少27百万円等があったことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べて83百万円増加（同9.4%増）し、971百万円となりました。

これは主に、未払費用の減少128百万円、未払消費税等の減少52百万円があったものの、短期借入金の増加209百万円、賞与引当金の増加67百万円等があったことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べて157百万円減少（同10.4%減）し、1,356百万円となりました。

これは主に、自己株式の取得による減少85百万円、利益剰余金の減少77百万円等があったことによるものであります。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末比4.7ポイント減少し、57.9%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年11月期の連結業績予想につきましては、本日付で公表いたしました「業績予想の修正および繰延税金資産の取崩しに関するお知らせ」をご覧ください。なお、業績予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値から変動する可能性があります。

なお、当四半期の決算説明資料を2020年10月15日夕方に適時開示する予定です。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	903	919
売掛金	670	503
仕掛品	111	286
前払費用	89	94
その他	19	21
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	1,793	1,824
固定資産		
有形固定資産	148	112
無形固定資産		
ソフトウェア	57	60
ソフトウェア仮勘定	47	15
その他	12	14
無形固定資産合計	117	89
投資その他の資産	342	302
固定資産合計	608	504
資産合計	2,402	2,328
負債の部		
流動負債		
買掛金	64	48
短期借入金	107	316
1年内返済予定の長期借入金	110	66
未払金	127	116
未払費用	158	30
前受金	44	108
預り金	50	30
未払法人税等	16	4
未払消費税等	99	47
資産除去債務	—	10
賞与引当金	—	67
受注損失引当金	30	25
その他	0	0
流動負債合計	811	873
固定負債		
長期借入金	44	72
資産除去債務	32	26
固定負債合計	76	98
負債合計	887	971

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	453	455
資本剰余金	2,201	2,203
利益剰余金	△910	△988
自己株式	△236	△322
株主資本合計	1,507	1,349
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△2	△2
その他の包括利益累計額合計	△2	△2
新株予約権	9	9
純資産合計	1,514	1,356
負債純資産合計	2,402	2,328

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年12月1日 至2019年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年12月1日 至2020年8月31日)
売上高	3,452	3,062
売上原価	2,290	1,962
売上総利益	1,161	1,099
販売費及び一般管理費	1,100	1,089
営業利益	61	9
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	13	4
持分法による投資利益	12	15
助成金収入	0	—
その他	1	0
営業外収益合計	27	20
営業外費用		
支払利息	2	2
為替差損	10	1
資金調達費用	—	12
その他	8	0
営業外費用合計	21	15
経常利益	67	14
特別利益		
投資有価証券売却益	2	—
関係会社株式売却益	6	—
特別利益合計	8	—
特別損失		
減損損失	—	※ 33
特別損失合計	—	33
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	75	△18
法人税、住民税及び事業税	3	2
法人税等調整額	△0	56
法人税等合計	3	59
四半期純利益又は四半期純損失(△)	72	△77
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	72	△77

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年12月1日 至 2019年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年12月1日 至 2020年8月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	72	△77
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1	0
その他の包括利益合計	△1	0
四半期包括利益	71	△77
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	71	△77

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

(自己株式の取得)

当社は、2020年6月16日開催の取締役会において自己株式の取得を決議し、当第3四半期連結累計期間に自己株式の取得を実施いたしました。この取得により当第3四半期連結累計期間において自己株式は85百万円(60,000株)増加し、当第3四半期連結会計期間末において、自己株式が322百万円となっております。

(会計上の見積りの変更)

第2四半期連結会計期間において、賃借している事務所の一部の解約を決定致しました。

併せて、不動産賃貸借契約に伴う原状回復費用として計上していた資産除去債務について、新たな情報を入手したことから、より精緻な見積りが可能となったため、見積額の変更をしております。

この見積りの変更による増加額4百万円を変更前の資産除去債務残高に加算しており、変更に伴って計上した有形固定資産については、全額減損損失を計上しております。

その結果、当第3四半期連結累計期間の税金等調整前四半期純利益は4百万円減少しております。

(四半期連結損益計算書関係)

※ 減損損失

当社は「with コロナ」時代に対応すべく、2020年6月より在宅勤務制度を本格導入することといたしました。これに伴い、事務所レイアウトの再配置を実施し、賃借している事務所の一部を2020年10月に解約することとし、解約の決定に伴い、減損損失33百万円を特別損失に計上いたしました。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2018年12月1日 至 2019年8月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他(注)	合計
	開発推進・支援	人材	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,987	1,366	3,353	98	3,452
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	9	9	—	9
計	1,987	1,375	3,363	98	3,461
セグメント利益	146	271	418	7	425

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コンテンツ事業等であります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	418
全社費用(注)	△362
「その他」の区分の利益	7
棚卸資産の調整額等	△1
四半期連結損益計算書の営業利益	61

(注) 全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年12月1日 至 2020年8月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他(注)	合計
	開発推進・支援	人材	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,625	1,368	2,993	68	3,062
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	6	6	—	6
計	1,625	1,375	3,000	68	3,068
セグメント利益	37	301	339	4	343

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コンテンツ事業等であります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	339
全社費用(注)	△335
「その他」の区分の利益	4
棚卸資産の調整額等	1
四半期連結損益計算書の営業利益	9

(注) 全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
(固定資産に係る重要な減損損失)

各報告セグメントに配分していない全社資産において、事務所の一部の解約を決定したことによる減損損失を33百万円計上しております。